



丹波市の未来をえがく

Vol. 2

～丹波市未来都市創造審議会 通信～



会議の詳細は
丹波市ホームページ

【第2号】2018年7月2日発行

6月21日(木)に丹波市の未来をえがく、丹波市未来都市創造審議会(第2回)を開催しました。

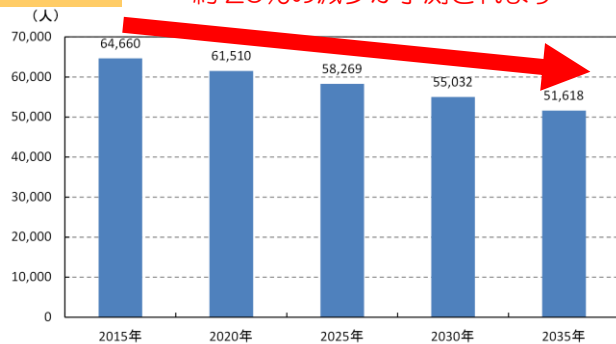
審議会では、市の現状や課題、将来予測を踏まえ、前回の審議会ですく多くの意見を頂いた、基本的なまちづくりの方向性として「**住みなれた地域に住み続ける+中心部に都市機能を一定集積**」に向けて、中心部と地域における都市機能の分担や配置、20年後の暮らしとまちの姿について審議しました。



■ 丹波市の現状と課題

人口

約20%の減少が予測されます



出典：国立社会保障・人口問題研究所
人口の推計

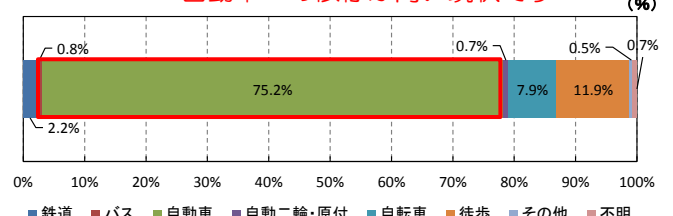
	2015年	2035年	変化率(%)
総人口	64,660	51,618	-20.2
15歳未満	8,352	5,696	-31.8
15～64歳	35,361	25,561	-27.7
65歳以上	20,902	20,361	-2.6
うち75歳以上	11,134	13,330	19.7
うち85歳以上	4,110	5,872	42.9
不詳	45	-	-

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所
年齢別人口の推計

後期高齢者の
増加が予測さ
れます

交通

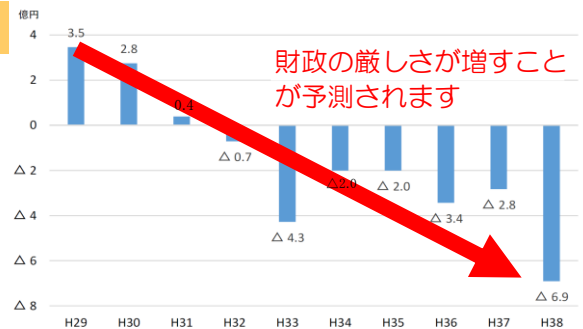
自動車への依存が高い現状です



出典：近畿圏PT調査
代表交通手段別機能分担率(平成22年(2010年))

財政

財政の厳しさが
増すこと
が予測され
ます



出典：平成29年度財政収支見通し
歳入歳出差引(基金取り崩し前の収支不足の見込み)

将来にわたって夢と希望をもって、**住みなれた地域に住み続けることができるまちづくり**のために、どうすれば良いかを考えます。

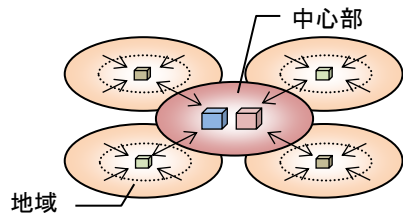
次回の丹波市未来都市創造審議会(第3回)の開催予定

- 日時 平成30年8月2日(木)午後2時～
- 場所 ハートフルかすが 大会議室(丹波市春日町黒井1500番地)
- その他 会議は傍聴できます。



■ 丹波市の未来を見据えた都市構造

20年後の基本的なまちづくりの方向性：**住みなれた地域に住み続ける＋中心部に都市機能を一定集積**



期待される効果（メリット）

- 地域においても一定の利便性を確保（生活サービスの維持）することにより、住みなれた地域に住み続けることができます。
- 都市機能の集約により、インフラ、施設の整備や移動にかかる効率性が高まります。

■ 都市機能配置のイメージ

（中心部）

既に一定のインフラ整備や都市機能の立地が進みつつあるエリアに配置され、全市的な都市機能の集積、立地が図られている。

（地域）

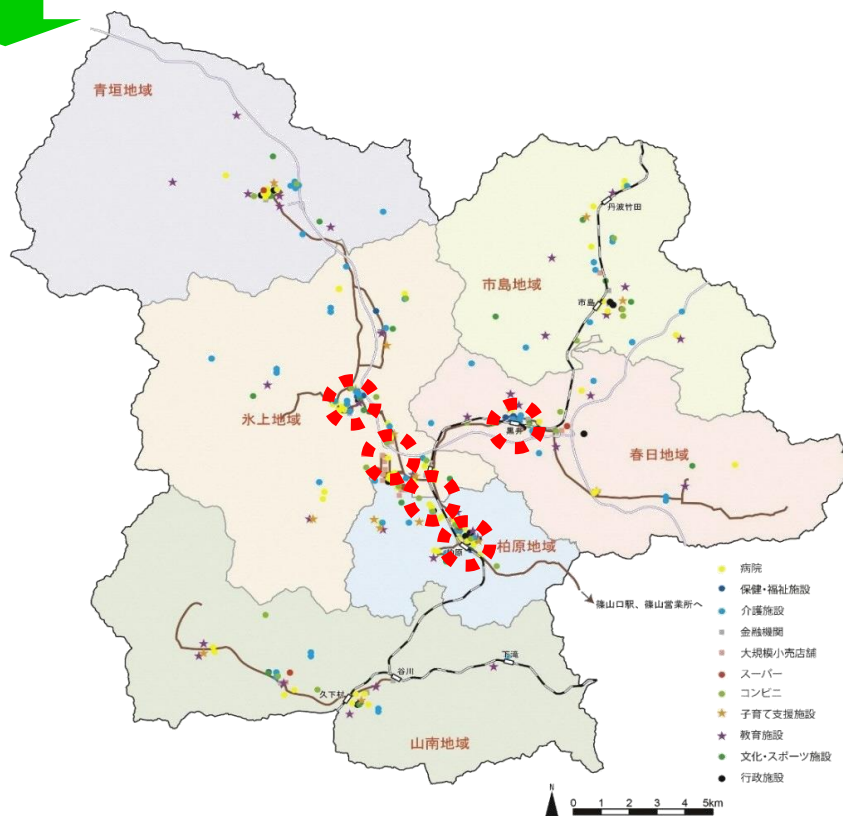
既存の施設やインフラを生かせる場所に配置され、普段の生活に必要な機能の立地が図られている。

（都市機能連携）

中心部～地域は、公共交通による連携が図られている。



市の中心部ですでに都市機能の一定の集積がみられるエリア



■ 将来のまちの姿・暮らしの姿についての主な意見（ご意見の一部を紹介します）

若者の就業場所の確保についても、将来のまちの姿に描く必要がある。

中心部に公共施設などの都市機能が集積されると、用事が一度に済ませられて便利になる。

都市機能の集約の適地は、どの地域からもアクセスを重視した交通の要所が望ましい。

高齢者だけでなく、免許を取得することができない若い世代が自由に移動できるように、公共交通の利便性が高いまちにしていくべきである。

住みなれたところに住み続けること理由様々であり、住み続ける人々のイメージを明確に示す必要がある。

市の魅力である自然と触れ合えるといったことを大切にしたい将来の姿を描くことが必要である。

人口減少により、このままでは自治協議会や自治会の組織体制が困難となり活動も限定的になる。

中心部と地域を結ぶ公共交通の整備は必要不可欠である。

都会のまねをするのではなく、田舎の良さを将来のまちの姿として描くべきである。

女性の参画を応援できるように、地域の意識改革が必要である。

地域で何もしなければ高齢化はますます進展するので、地域の良いところをアピールしていく必要がある。

誇れる自然景観があり、都市機能の中には、景観資源と調和するデザインなどの議論が必要である。（緑地・水辺、農業集落、歴史文化）

